

矢作ダム排砂工法現地実験の審査結果について

1. 背景

矢作ダム流域の地質は、地表の花崗岩が風化し崩壊しやすい特徴を有しており、矢作ダムでは昭和46年3月の完成以降、毎年約30万m³の土砂がダム貯水池に堆積しています。特に平成12年の恵南豪雨時には1年間で約280万m³もの土砂が流入し、平成21年度時点では、計画堆砂量1,500万m³に対する堆砂量の割合が約103%となりました。

このため、国土交通省では平成17年(2005)から、貯水池内に堆積した土砂の掘削と恒久的に排砂を行う排砂施設の検討を行うとともに、土砂移動の連続性を確保して、貯水池の保全を図る「矢作ダム堰堤改良事業」を行なっています。

この度、矢作ダム貯水池における堆砂対策の1手法として、水頭差を利用した吸引方式による排砂工法の機能を確認するにあたり、民間企業等から広く新技術や工法を公募し、現地実験を行うこととしました。

2. 公募内容

1) 現地実験の目的

水頭差を利用する吸引方式の排砂工法を公募し、選定する工法について現地実験を行い、その機能を確認することを目的としています。

※なお、今回の現地実験は、吸引方式による排砂工法の機能の確認を行うものであり、矢作ダム再編事業で採用する工法を確定するものではありません。

2) 公募した技術

固定式もしくは移動式による吸引方式の排砂工法について公募します。

※吸引方式とは、動力を用いず水頭差だけで排砂可能な方式（排砂開始時点では、動力を用いることも可能）で、固定式とは、吸引部を予め貯水池に埋設する方式、移動式とは、吸引箇所を移動できる方式を想定しています。

3) 公募した期間

平成23年2月9日（水）～平成23年2月28日（月）

（公募説明会：平成23年2月18日（金）13：00～矢作ダムにて）

4) 現地実験場所

矢作ダムの上流6.2km に設置されている貯砂ダム上・下流とする。

貯砂ダム位置：左岸 愛知県豊田市シシナド地先

右岸 岐阜県恵那市相走^{あいぼしり}地先

3. 公募結果

1) 応募者・応募工法

応募者数1者1工法（移動式1工法）

2) 審査結果

工法、実験施設、現場管理、工程の妥当性等について審査し、応募者により応募された工法を選定。

4. 今後の現地実験スケジュール（案）

- ・平成23年 6月 ～ 11月 実験準備
- 11月下旬 ～ 12月中旬 実験実施